

◎ 1年生 | 「書くことの学習」

初めての文字指導 ～表情のある言葉としての文字～

○文字が書ける子どもたち

最近では、幼稚園や保育園などで、「ひらがな」や「カタカナ」が書けるようになって、入学してくる子どもが多くなっています。しかし、就学前教育で習得している「文字」は、個人的なものであり、他者との間に交わされる「言葉」としての「文字」にはなっていません。「文字が書けること」＝「文字を理解していること」ではないという点に気を付けながら、子どもたちを指導していきましょう。

そこで、今回は「文字」の持つ楽しさを身体で感じさせながら、子どもたちの目と耳を「身の回りにある言葉」に向けさせる方法をご紹介します。

○母音の表情、「あ」「い」「う」「え」「お」！

「では、先生のまねをして、言ってみましょう」まず最初に、驚いた時の「あ」、悲しい時の「あ」、がっかりした時の「あ」、嬉しい時の「あ」など、同じ「あ」という一音でも、声にすると様々な表情を持つことを実感させるところから始めます。

「口は大きく開いて」「このような形で」などの解説は一切不要です。できるだけ、身体全体の動作を入れながらさまざまな「あ」を言ってみましょう。子どもたちは、教師の身振り手振りも真似しながら、身体全体で発声しているはずで、「い」「う」「え」「お」も同様に行います。これは授業の最初に毎回、繰り返して行う方が効果的です。慣れてきたら、誰かに聞かれたら困るのだといった雰囲気、わざと小さな声でやってみましょう。

このように、みんなと一緒に声を出す楽しさや、声の響き合いの楽しさを感じさせながら、音量の調整や、声の表情のつけ方などを、自然に身体で覚えさせていきます。

○絵の中から「表情」を読み取らせる

どの教科書も、最初の単元は「絵の中から様々な《言葉》を見つける」という構成になっています。就学前教育の影響で、動物や物の名前だけではなく、色や大きさなどを口にする子どももいるでしょう。この時にぜひ行いたいのが、絵の中から「表情（気持ち）」を見つけさせるという学習活動です。



絵：相野谷由紀
(こくご一上 かざぐるま | 光村図書)

- ・ つくしを見つけてうれしいなって思っている。
 - ・ 鳥の赤ちゃんが「おなかすいたよ」と言っている。
 - ・ 鳥さんが「やあ、おはよう」って言っている。
- 絵の中にある単語見つけではなく、想像をふくらませ、描かれていない気持ちや声を感じられるようにすることが、その後の学習へとつながります。

○表情を表す「言葉」としての文字

濁音や半濁音の学習では、発音の違いを、「ひ」「び」「ぴ」のように、記号をつけることによって区別して表すということを学びます。

文字指導としては、「つくし」のように、一筆書きの文字から始めるのが常識ですが、早い段階で、「う～」「う！」など、記号を使うことで音声に近い文字表現が可能になることを紹介してもよいでしょう。つまり、「文字を書くこと」と「言葉を話すこと」とが、それぞれ別のことであるといった、子どもの文字に対する観念を払拭し、表情のある「言葉」としての「文字」を、どのように実感させられるかが大切なのです。